

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(ソブリン格付け: <http://mylibrary.maeda1.jp/SovereignRating.html>)

マイライブラリー:0521

(注)本稿は 2021 年 1 月 7 日及び 9 日の 2 回にわたりブログ「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.1.10
前田 高行

上位国は変わらず:世界主要国のソブリン格付け(2021 年 1 月現在)

本レポートは著名な格付け会社 Standard & Poors (S&P)¹の 2021 年 1 月現在の世界主要国及び MENA 諸国のソブリン格付け²を取り上げて各国を横並びに比較するとともに、いくつかの国について過去3年間にわたる半年ごとの格付け変化を検証するものである。

因みに S&P の格付けは最上位の AAA から最下位の C まで9つのカテゴリーに分かれている。このうち上位4段階(AAA から BBB まで)は「投資適格」と呼ばれ、下位5段階(BB から C まで)は「投資不適格」又は「投機的」とされている。また AA から CCC までの各カテゴリーには相対的な強さを示すものとしてプラス+またはマイナス-の記号が加えられている³。なお CCC 以下で S&P が債務不履行と判断した場合は SD(Selective Default:選択的債務不履行)格付けが付与され、さらに格付けを行わない場合は N.R.と表示される。

* 過去のレポートは下記ホームページ参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/SovereignRating.html>

(日本含む主要国の格付け変動なし!)

1. 2021年1月現在の各国の格付け状況(末尾表 1-G-3-01 参照)

2021年1月現在の格付けを半年前の2020年7月と比べると最高格付け AAA(トリプル A)のドイツ、シンガポール等の国々を含め AA 格付けの韓国、A+格付けの日本、中国など格付け上位の主要な国々に変動はなかった。

G7 の国々のうちドイツ及びカナダは AAA の最高格付けであり、米国は1ランク下の AA+、英国及びフランスはさらに1ランク低い AA である。そして日本は AAA より4ランク低い A+に格付けされ、イタリアは投資適格ではあるが BBB にとどまっている。因みに格付け定義では AA は「債務を履行する能力は非常に高く、最上位の格付け(トリプル A)との差は小さい」とされ、これに対して格付け A は「債務を履行する能力は高いが上位2つの格付けに比べ、事業環境や経済状況の悪化からやや影響を受けやすい」とされている。そして BBB の定義は「債務を履行する能力は適切であるが、事業環境や経済状況の悪化によって債務履行能力が低下する可能性がより高い」である。

G7 以外の国ではアジア諸国のうちシンガポール及びオーストラリアが AAA に格付けされ、また MENA 諸国では、アブダビが AA に、カタール、イスラエル及びクウェイトが AA- に格付けされている。サウジアラビアの格付けは A- である。アジア諸国では香港が AA+、韓国は AA、台湾は AA- であり、中国及び日本の格付け A+ より高い。

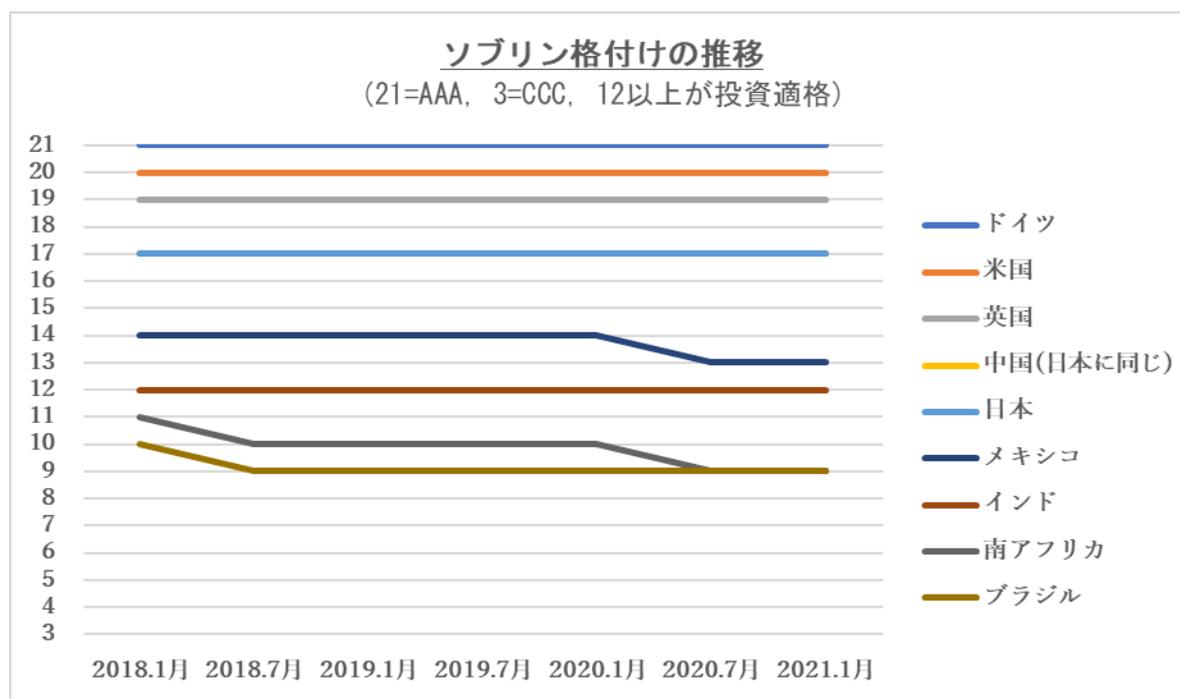
昨年下半年に格付けが変更された国を見ると、アイルランドは A+ から AA- に格上げされており、一方、オマーンは BB- から B+ に格下げされている。因みにオマーンは昨年上期にも格下げされ、1 年間で BB から B+ に 2 ランク下がっている。格付け外ではアルゼンチンが SD (Selective Default) を脱し CCC に格付けされている。また昨年上半期に NR (格付けなし) であったレバノンが SD とされている。

3. 2018年1月以降の格付け推移

ここでは2018年1月以降現在までの世界の主要国及び GCC6 国（サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、クウェイト、オマーン、イスラエル）のソブリン格付けの推移を検証する。

(先進国は格付け不変、新興経済国との格差拡大！)

(1) 世界主要国の格付け推移



先進国の中ではドイツが過去3年間常に最高のトリプル A の格付けを維持している。米国はドイツより 1 ランク低い AA+ を、また英国は米国よりさらに 1 ランク低い格付け AA を過去3年間続けている。中国と日本の格付けは3年間同じ A+ で推移している。

新興経済国のメキシコ、インド、南アフリカ及びブラジルの2018年1月の格付けは、メキシコが投資適格の BBB+ であり、インドは投資適格で最も低い BBB- であった。メキシコは2020年上期に

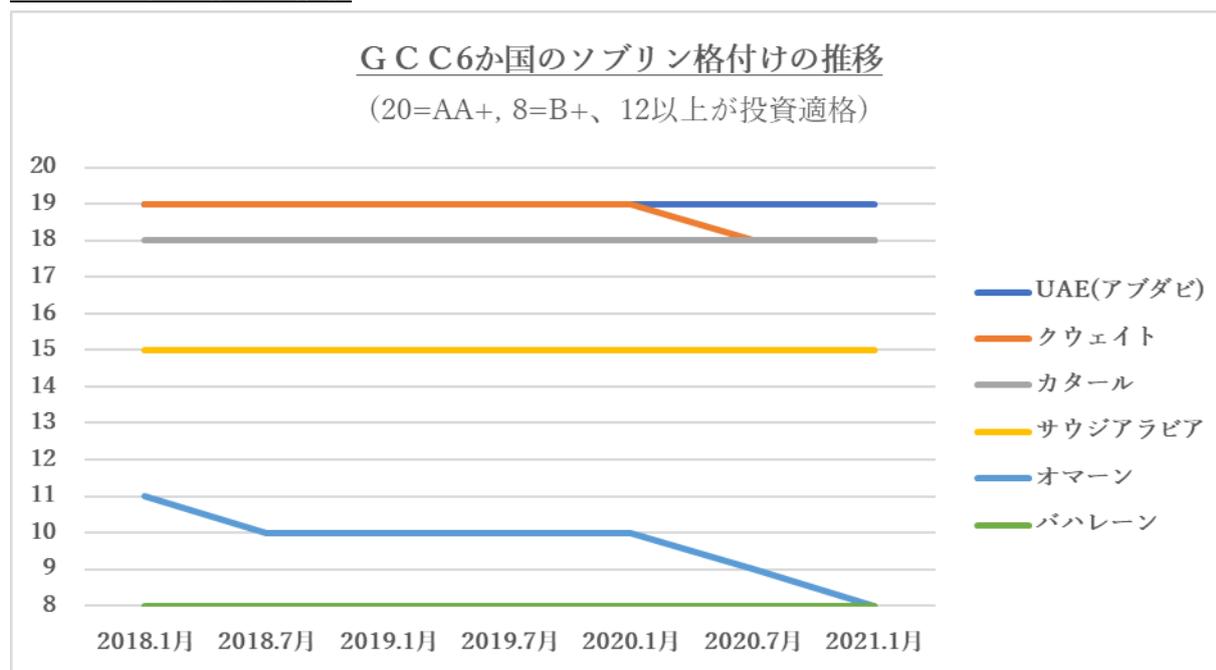
BBB に格下げされている。これに対しインドは今年1月現在も BBB- である。因みに S&P は BBB を「債務を履行する能力は適切であるが、事業環境や経済状況の悪化によって債務履行能力が低下する可能性がより高い」と定義付けている。

南アフリカとブラジルの2018年1月の格付けはそれぞれ BB+ 及び BB であり共に投資不適格であった。両国の格付けは同年上期に共に 1 ランク低下し南アフリカは BB、ブラジルは BB- となっている。その後2019年下期まで格付け変化は無かったが、2020年上期に南アフリカが BB- に下がりはブラジルと並び現在に至っている。格付け BB の定義は「より低い格付けの発行体ほど脆弱ではないが、事業環境、財務状況、または経済状況の悪化に対して大きな不確実性、脆弱性を有しており、状況によっては債務を期日通りに履行する能力が不十分となる可能性がある。」とされている。

3年間を通して見ると、先進国間の格付けは変わらない一方、新興経済国は格付けが下がる傾向が見られ、先進国との格差が広がっている。

(上位のアブダビ、カタール、クウェイト、大きく離れるオマーンとバハレーン！)

(2)GCC6カ国の格付け推移



GCC6カ国(UAE、クウェイト、カタール、サウジアラビア、オマーン及びバハレーン)の過去3カ年のソブリン格付けの推移を見ると、まず2018年1月時点では UAE(アブダビ)及びクウェイトの格付けが最も高いAAであり、これに続きカタールがAA-に格付けされていた。サウジアラビアはこれら3カ国より低いA-であり、オマーンは投資不適格のBB+であった。有力な産油(ガス)国が多いGCCの中で石油生産量がわずかなバハレーンのソブリン格付けはB+にとどまっていた。

経済力の弱いバハレーンは現在もB+にとどまったままである。オマーンは格付けの下落が激しく2018年上期にBBに格下げされ、さらに昨年には上期・下期と2期連続で格下げされた結果、今年1月現在ではバハレーンと同じB+になっている。格付けBの定義は「現時点では債務を履行する能力

を有しているが、「BB」に格付けされた発行体よりも脆弱である。事業環境、財務状況、または経済状況が悪化した場合には債務を履行する能力や意思が損なわれ易い。」とされており、オマーンとバハレーンの経済には不安感がある。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

世界主要国及び MENA 諸国のソブリン格付け比較(Standard & Poors: 2021 年 1 月)

		青字: 今回よりアップ、赤字: 前回よりダウン				
		格付け	付加数字	欧米	MENA	アジア他
21	投資適格	AAA		独、加、デンマーク、ノルウェー、スイス、オランダ		オーストラリア、シンガポール、
20		AA	+	米、オーストリア		香港
19				仏、ベルギー、英	アブダビ	韓国
18			-	アイルランド	クウェイト、カタール、イスラエル	台湾、
17		A	+			日本、中国、
16				アイスランド、スペイン		
15			-		サウジアラビア、	
14		BBB	+			タイ、フィリピン
13				イタリア、ポルトガル		インドネシア、メキシコ
12			-	ロシア	モロッコ、	インド
11	投資不適格 or 投機的	BB	+			
10						ベトナム
9			-	ギリシャ		ブラジル、南ア
8		B	+		トルコ、ヨルダン、オマーン、パハレーン	
7					エジプト	
6			-		イラク	
5		CCC	+			アルゼンチン
4						
3			-			
2		CC				
1	C					
	SD				レバノン	ベネズエラ
	NR					

-
- 1 世界的な格付け会社は **S&P** 社のほかに **Moody's** 及び **FitchRating** があり、三大格付け会社と呼ばれている。
 - 2 ソブリン格付とは国債を発行する発行体の信用リスク、つまり債務の返済が予定通りに行われないリスクを簡単な記号で投資家に情報提供するものである。「ソブリン格付け」は、英語の **sovereign**（主権）に由来する名称であり、国の信用力、すなわち中央政府（または中央銀行）が債務を履行する確実性を符号であらわしたものである。ソブリン格付けを付与するにあたっては、当該国の財政収支の状況、公的対外債務の状況、外貨準備水準といった経済・財政的要因だけでなく、政府の形態、国民の政治参加度、安全保障リスクなど政治・社会的要因を含めたきわめて幅広い要因が考慮される。
 - 3 S&P の格付け定義については<http://menadabase.maedal.jp/1-G-3-02.pdf>参照。